

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 高野 博信

	主査	教授	武富	紹信
審査担当者	副査	教授	山下	啓子
	副査	教授	田中	伸哉
	副査	教授	櫻木	範明

学 位 論 文 題 名

EphA4 をターゲットとした膵癌新規予後予測バイオマーカーおよび
新規治療法の開発に関する研究
(Studies on development of new biomarker and therapeutics
for pancreatic cancer targeting EphA4)

本研究は、現在最も予後不良な癌のうちの一つである膵癌の予後改善に向け、EphA4 遺伝子が膵癌の新規予後予測バイオマーカーとなり得ること、さらに同遺伝子をターゲットとした化合物が膵癌新規治療薬となり得る可能性を有することを示した。本研究の結果が、今後の膵癌治療における予後改善に寄与することが期待された。

審査にあたり、副査の櫻木範明 教授よりエフリンリガンドの発現部位や EphA4 自体の autocrine、paracrine による活性化の可能性についての質問があり、申請者は本研究から得られる見解および今後の課題を回答した。さらに、既存の化学療法との併用療法および膵癌の早期発見へつながる可能性についての質問があり、今後の展望を回答した。副査の山下啓子 教授からは、臨床情報の結果の記載法、および免疫組織学染色の評価基準の設定法に関しての助言があり、さらに阻害薬の作用機序と実際の臨床材料との再現性、EphA4 の膵癌細胞における誘導機序に関しての質問があり、申請者は今後の検証課題である旨を回答した。副査の田中伸哉 教授からは EphA4 と間質との関係および Eph signaling に関する他の経路への関与についての質問があり、申請者は本研究における検証内容および今後の課題を回答した。最後に、主査の武富紹信 教授より *in vivo* での薬剤投与経路、および今後の併用療法の展望について質問があり、申請者は本研究での現状および今後の展望を回答した。

全ての質問に対して、申請者はその主旨を的確に理解し、文献的考察を混じえて適切に回答した。また、今後の課題や展望についても逐次的課題を明確に挙げ、研究結果の応用について明確な考えを示した。

審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を授与されるのに十分な資格を有すると判定した。